

5/12-14 「沖縄・辺野古は今」写真・映像展

沖縄の現実に驚き・怒り・共感

5月15日の沖縄復帰50年記念の日を前に、向日町競輪場の隣にある向日町会館で、沖縄の現実を知り、沖縄の基地問題を私たちの問題として考えようと、写真・映像展を開催しました。あいにくの雨模様の中、百人を超える方々が来場されました。その様子と、参加者の声を紹介します。



辺野古・大浦湾一帯は、日本で唯一「ホープ・スポット」に指定された生物多様性の海です。その自然の姿と、基地建設に抗議する人々の姿を紹介。



●「沖縄本島だけでなく、周辺の島々がこんなに基地化されていることを知り、衝撃を受けました。米軍基地の拡充と、日本の自衛隊の拡充は一体なんだということが、よくわかりました。」



●「沖縄の現状を見て、本土並み復帰とはほど遠いと改めて感じました。ウクライナ危機に乗じて、核武装論や軍拡論が政権内から出ていますが、沖縄はその最前線に立たされる脅威を思わずにはいられません。」



●「辺野古のゲート前に行ったことがある。もっとこのようなすばらしい写真展の機会があればいいのと思います。」

辺野古埋立ての現状

映像コーナー

辺野古での抗議行動や、沖縄戦の遺骨の眠る土砂埋め立て問題などを上映しました。

●「今の沖縄に対する国の姿勢は戦時中と変わっていない。ゲート前での抗議の座り込みのDVDを見て、久々に闘志がわいてきた。良いビデオを見れた。」



軍事要塞化される沖縄

今、鹿児島県・馬毛島から、台湾近くの与那国島まで、沖縄の島々に続々とミサイル基地など自衛隊の基地建設が進められています。軍事衝突の際は、沖縄が戦場となります。再び沖縄が、本土防衛の防波堤にされています。



宮古島

人口は向日市とほぼ同じです。自衛隊のミサイル基地が配備され、集落のすぐ近くに弾薬庫が建設されました。万一の時に、島民には逃げ場はどこにもありません。